

授業科目名	観光情報演習	担当教員	野津 直樹
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	演習		
開講年次	3年第3クォーター		
講義内容	<p>近年の情報技術の発達にともない、従来の情報処理技術では扱うことができなかった様々なデータがビッグデータと呼ばれ、社会・経済の問題解決や業務の付加価値向上に役立てられるようになった。ビッグデータは観光業界でも活用が始まり、これまで熟練者の勘と経験則で立案されてきた観光施策が、現在では意外なデータから発見されたり、データによって効果を確認したりできるようになっている。本演習では、観光業界で近年よく使われているデータの種類を知り、その活用法を実践的に学び、オンラインで得られない情報を実地で収集して補いながら、データを活用した観光施策の立案に挑戦する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・官民がオンライン公開する観光統計情報サイトを知り、自分で操作できる ・公開された観光情報を分析し、観光課題の仮説を論理的に立てられる ・客観的なデータに基づいた観光施策を立案し、プレゼンできる 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計情報利用の意義とデータリテラシー 2. 世界の観光統計情報と日本の観光 3. 日本の観光統計情報を見てみよう (日本政府観光局「日本の観光統計データ」の紹介) 4. 「日本の観光統計データ」分析演習、グループディスカッション 5. 地域の観光統計情報を見てみよう (豊岡観光イノベーション「リサーチラボ」の見方) 6. 「リサーチラボ」分析演習、グループディスカッション 7. 地方創生にビッグデータを役立てよう(1) (地域経済分析システム「観光マップ 国内」の見方) 8. 「観光マップ 国内」分析演習、グループディスカッション 9. 地方創生にビッグデータを役立てよう(2) (地域経済分析システム「観光マップ 外国人」の見方) 10. 「観光マップ 外国人」分析演習、グループディスカッション 11. 地方創生にビッグデータを役立てよう(3) (地域経済分析システム「人口マップ」の見方) 12. 「観光マップ 外国人」分析演習、グループディスカッション 13. 地方創生にビッグデータを役立てよう(4) (地域経済分析システム「まちづくりマップ」の見方) 14. 「まちづくりマップ」分析演習、グループディスカッション 15. ビッグデータで観光マーケティングを考える (日本観光振興協会「観光予報プラットフォーム」の見方) 16. 「観光予報プラットフォーム」分析演習、グループディスカッション 17. ビッグデータで訪日外国人観光のトレンドを知る(1) (ナイトレイ社「inbound insight」の見方) 18. 「inbound insight」分析演習、グループディスカッション 19. ビッグデータで訪日外国人観光のトレンドを知る(2) (ナビタイムジャパン社「インバウンドプロファイラー」の見方) 20. 「インバウンドプロファイラー」分析演習、グループディスカッション 		

	<p>21. 統計情報を自分で分析し、仮説を立ててみよう</p> <p>22. 立てた仮説が確かなものか、現地で調べてみよう</p> <p>23. 現地で調べたデータを、自分で集計してみよう</p> <p>24. 仮説を元に、これから自分ができることをまとめよう</p>
事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で紹介した観光情報を活用し、自身が発見したことをまとめたミニレポートを提出すること。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない ・各回の授業において資料を配付する
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業において適宜紹介する
成績評価 の基準	<p>ミニレポート（70%：各10%×全7回）、最終発表（30%）により評価する。</p>
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	<p>観光分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。</p>
備考欄	